

# Caco Mir 1

cacomir

## エリザベス

---

いうことを聞きたくなくて  
彼女は耳を塞いでた  
哀しい苦しいと感じたくなくて  
彼女は視界を塞いでた

いつかはきっと一人になるの  
それはそれは惨めなことだろう  
だから彼女は諦めた  
先回りして、切り離れた

さようなら 私の愛したかぞくたち  
さようなら 私の愛したべつとたち  
さようなら 私の愛した友人たち

そしてこんにちは 私だけの世界 エリザベス

彼女はだれかのものにはなりたくなかった  
だからだれも彼女を信じられなかった  
彼女はだれかをしんじたかった  
だからだれも信じられなかった

さようなら 私の愛した言葉たち  
さようなら 私の愛したいきものたち  
さようなら 私を愛さなかったせかいたち

そしてこんにちは 私だけの世界 エリザベス

だけど 世界なんて そこには何もなかったの  
何もない世界 だれもない世界  
エリザベスなんて 最初からそこにいなかったの

## てっぺんの理由

---

ひとはきっと失ってしまうのだろう  
坂道をのぼって、のぼって、てっぺんについた時に。

ひとはてっぺんが好きだ

例えばジャングルジムだったら  
私は途中で引き返して  
やっぱりやめたとやめることができるのだろうか

例えば砂場につくった小さなお山だったら  
短い足でもすくとんと飛び越えて  
ああ簡単だった、と終わらせることができるのだろうか

人はてっぺんが好きだ  
人は物理的なてっぺんにはこだわらない  
海の底にもぐることだろうと、地下を掘り下げることだろうと。

人はてっぺんが好きだ  
人はてっぺんを客観的な目線で見ることがある  
あなたが思うてっぺんが、  
当人にとっては下り坂の途中かもしれないのに。

人はてっぺんが好きだ  
どうしててっぺんは てっぺんなのだろうか  
どうして人は 物理的なてっぺんにはこだわらないのに  
それを てっぺんと呼ぶのだろうか

海の底の底とか、地下のしたのしたのほうとか  
そんなのではだめなのだろうか

人はてっぺんを客観的な視点で見ることがある  
それは 坂道の上の上のほうにある  
それは がんばって、がんばって 掴み取るものなのだ  
それでもひとは きっと失ってしまうのだろう  
坂道をのぼって、のぼって、てっぺんにたどり着いた瞬間に。

それでも、それでもひとは

てっぺんが好きだ。

# not I

---

ゆるしてね

あいしてね

こわれてもいい？

めちゃめちゃに はちゃめちゃに

だれにも見せたことがないくらい、こわれてもいい？

もしそうになったら、ちゃんとなおしてくれる？

あいしてね

ゆるしてね

そしたらはじめて あなたをあいすることができるから

-----  
サミュエルベケットの「Not I」を観て、衝撃を受けました  
内容はまったく関係ありませんが

「Not I」 = 私じゃない

「Not 愛」 = 愛じゃない

にかけてみました。

-----

## まじわる

---

難しいはなしが、したいんです  
僕には分からないよ　なんてそっぽむかないで  
難しいはなしを、しましょう

宇宙はどうして無からうまれたのか  
無とは全くない状態であるのにどうして無があると断言できるのか  
神様がいるのならばどうして宇宙を生み、どうして生命を生み、どうして人間を生んだのか

あなたと難しいはなしが、したいんです  
そんなことよりいいことがあるよ　なんてにっこりしないで  
難しいはなしを、してください

私のあたまの中は不安でいっぱい  
だれがキライだとかだれがムカツクとか  
そんなことにまで興味がわかないんです

私のあたまの中は謎でいっぱい  
もうすでに決まっているだれかの感情について  
どうこう言おうと思う余裕はないんです

難しいはなしが、したくなりました  
ただただ、あなたと、したくなりました  
あなたの意見を聞いて  
私の意見を話して  
そうしたら、お互いの難しい部分を交換できるような気がして  
そうして初めて、お互いの何かが分かるような気がして  
浅はかでしょうか  
難しいはなしを、してください  
難しいはなしで、いいんです

## あさはかな褒め言葉

---

「かわいいね」と言って撫でられるとき  
私はとてももやもやするのです

だって私のなかにはちゃんと、可愛くないものがあるんだもの  
あなたをうばっちゃいたいとか、おなかが痛くていらいらするとか、ああめんどくさいなあとか  
およそ可愛いとは遠いものたちが、すみついているんだもの

「かわいいね」と言って撫でられるとき  
私は褒められている気持ちにはなれないのです

だって私を可愛いというあなたの目には、私がうつっていないんだもの  
だいたいこんなものだろう という見当をつけられた、  
私の外見をしている女の子に対して、あなたは可愛いといっているのだもの

ひねくれているように聞こえるかしら？  
だから言ったでしょう 私は「かわいいね」と言って撫でられたくなんか、ないんです。

## Some people call it "prince"

---

きみの求めるものが1つなら  
私はその1つになりたいと思う  
描かれるその1つになろうと  
私は必死になると思う

でも私は多分その1つではないので  
私は私という入れ物の中に息づく  
形を変えやすい だけど固形の生き物なので

その1つになったところで  
求め続けるのでしょう

この入れ物にすっぽりとあてはまる  
特に何かになろうとしなくても  
求められる1つになれるような  
そんな誰かのことを



## 性悪説

---

ヒナは親鳥になる

おたまじゃくしはカエルになる

みんな、決められている。

自分が何になりたいかなんて考えるひまもなく

いや、たとえ考えたとしても絶対に

そういう仕組みとして決まっている。

人は成長したがる生き物だ

夢を見て、やりがい求めて

何かをめざして、生きていくものだ

それでも多分 人間も人間になるべきなのだろう

それが動物にないものなのかは知らないが、

道具を使うことができ

怒り笑い泣くことができ

人を思いやることができ

季節のうつろいを感じることができる

そういうものを、人間と呼ぶのなら

私たちは将来 人間になるべきなのだ。

動物たちよりも

長い長い年月をかけて

人間は人間をめざして生きていく

## 詩をよむ人

---

しぼるだけしぼってしまったら  
体には何も残らない

もしもこれが雑巾だったら  
からからにかわいてしまって  
だれかがぬらしてくれない限り  
うるおいは戻らない

私の体にある色々な  
きもちやできごとや、それによってうまれた何かを  
全てことばにしてしまって  
ああもう何も残ってないな、と思っても

雑巾ではないので  
私は人なので  
自らうるおうことができるのです

植物は光がなくては光合成できないけれど  
私は人なので  
何もなかったらなかったで  
自らの中に何かをうむことができるのです  
人はそうやって、生きていくのだと思うのです